



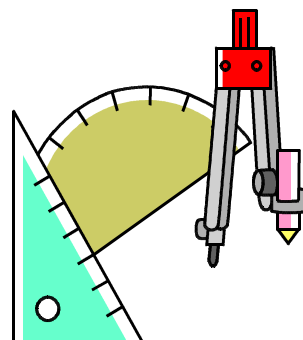
令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

6年生が5月27日に参加した『全国学力・学習状況調査』の結果から、今後、学校として伸ばしていきたい力、取り組んでいきたいことを整理しました。もちろんこの調査ではかれることは、子どもたちにつけたい学力の一部にすぎませんが、指導のための資料として、これからの学習・生活指導に生かしていきたいと考えています。また、桑名市の結果については、桑名市役所のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

ホームページ「桑名市」＜暮らし＞教育委員会＜小中学校＞令和3年度
「全国学力・学習状況調査」の結果

<http://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/24,53157,302,713.html>

以下は、本校の全国学力・学習状況調査の結果分析です。



◆本年度の結果について

【国 語】

（良かったところ）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えること
- ・資料を用いた目的を理解すること
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと

（課題のあるところ）

- ・目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけること
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること
- ・文の中における修飾と修飾語との関係を捉えること

【算 数】

（良かったところ）

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができること
- ・条件に合う時刻を求めることができること
- ・道のりを基に、時間を求める式に表すことができること
- ・棒グラフから、数量を読み取ることができること
- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができること
- ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断することができること
- ・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができること

（課題のあるところ）

- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できること
- ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できること
- ・少数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できること

【裏面へ続きます】

【児童質問紙】生活・学習状況

(良かったところ)

- ・「朝食を毎日食べている」と答えた子の割合が高いこと
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と答えた子の割合が高いこと
- ・「将来の夢や目標を持っている」と答えた子の割合が高いこと
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた子の割合が高いこと
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた子の割合が高いこと
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた子の割合が高いこと
- ・「学校に行くのは楽しい」と答えた子の割合が高いこと
- ・「自分と違う意見について考えることは楽しい」と答えた子の割合が高いこと
- ・「友だちと協力することは楽しい」と答えた子の割合が高いこと
- ・「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と答えた子の割合が高いこと
- ・「教科の勉強は大切で、将来役に立つと思う」と答えた子の割合が高いこと

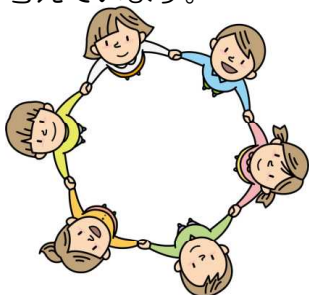
(課題のあるところ)

- ・家庭での携帯、スマホ、PCに関する約束事を守れている割合が少ないこと
- ・家で自分で計画を立てて勉強したり、授業の復習をしたりする時間が全体的に少ないこと
- ・学校が休みの日の学習時間が全体的に少ないこと
- ・新聞を読む子の割合が少ないこと

◆結果を受けての分析と今後の方針

国語では、効果的に読んだり、自分の考えを持ってスピーチの構成を考えることは得意である反面、文章と図表を結びつけて必要な情報を見出すことが課題であることがわかりました。そこで、各教科の中で根拠を明らかにして自分の考えをまとめたり、隣どうしやグループで話し合うことでいろいろな考え方があることを知ったり、自分とはちがう立場からも物事を考える経験を増やしたりしたいと考えています。

また算数では、基礎的な数量の計算や読み取り、判断力についてはよく身についていると思われます。しかしながら、図形が絡む問題や、ある資料を基に別の事柄に関連付ける問題にやや苦手意識を持つ子が多いようです。学校では、筋道を立てて説明する活動や数量関係、図形を身近な事象としてとらえ、他の資料と関連付けたり整理したりする課題に取り組む機会を増やしていきたいと考えています。



児童質問紙では、「いじめはどんな理由があってもいけない」「人が困っているときは、進んで助けている」と考える子が非常に多いことがわかりました。このことは大変うれしく思います。これに安心することなく、子どもたちが実生活で「いじめは許さない」「相手のために」という気持ちから実践に移せるよう、授業や学級活動を展開していく所存です。今後も全校の子どもたちが「学校が楽しい」と感じられるよう、安心できる学校づくりに努めていきます。また、過去、低水準であった「将来の夢や目標を持っている」が飛躍的に向上したことは、学校だけでなく家庭においても

関係する会話をしてもらっているおかげだと思えます。今後ともよろしくお願いします。

家庭学習に目を向けると、計画を立てて学習することを苦手とする子どもが多いようです。学習活動だけでなく計画的に時間を使って生活することは、将来においても大切な力となります。この点については各家庭での支援（特に見届け）が不可欠です。伊曽島小学校ではこれまでも、「家庭学習の時間は“学年×10分”を最低時間とする」ということを呼びかけてきました。この目標を達成すべく言葉がけをよろしくお願いします。学力向上には基本的な生活習慣の確立と豊かな人間関係づくりが欠かせません。今後とも学校・家庭・地域の協力のもと、子どもたちの学力向上を図っていききたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

